平成25年度第１回大阪府市文化振興会議　議事要旨

１　日　時　　平成25年５月７日（火）午前10時～11時30分

２　場　所　　さいかくホール（大阪府庁新別館北館１階）

３　出席委員　池末委員、石野委員、桂委員、當麻委員、中川委員、橋爪委員、弘本委員、山口（悦）委員、山口（洋）委員、橋本専門委員

４　議　題

（１）会長及び副会長の選任について

（２）文化振興会議の運営について

（３）アーツカウンシル統括責任者選考部会の設置について

（４）その他

５　議事概要

○会議開催に当り、事務局から本会議の設置について説明し、事務局を代表し、大阪府　　大江府民文化部長が挨拶。

（１）会長及び副会長の選任について

○事務局から、共同設置規約第9条により会長及び副会長の選出が必要であることを説明。

○委員から、大阪府文化振興会議において就任いただいていた橋爪委員、中川委員に会長、副会長をお願いしてはとの意見あり。他に意見なく、会長に橋爪委員、副会長に中川　　委員を選出することに決定した。

○橋爪会長、中川副会長から就任の挨拶。

（２）文化振興会議の運営について

　○事務局から、資料２をもとに会議運営スケジュールについて説明。

　○委員から次のようなコメントがあった。（⇒は事務局）

　　・昨年度の文振会議は、計画を策定するアウトプットが明確だったが、今年度のこの　　会議では何を期待されているのか。知事、市長への提言はどのようなイメージか。

　　　⇒昨年度計画を策定したところであり、今年度は計画の答申はない。アーツカウン　　シルは当面評価中心だが、次年度に向けた府市事業のパワーアップなど企画提案を議論いただくこともある。

・昨年度はワッハ上方など個別の事案について議論した。今年度も場合により、特定の重要案件について議論することもありえる。

○会長から今年度のスケジュールについて諮り、各委員の了承が得られた。

（３）アーツカウンシル統括責任者選考部会の設置について

　○事務局から、資料3をもとに統括責任者募集について説明。募集状況について、正式な申込みは未だないが、問合せが数件ある旨説明した。また、選考について速やかに行うため、資料４の選考部会の設置案を説明。

　○委員から次のようなコメントがあった。（⇒は事務局）

　　・応募がない場合、募集期間を延長するのか。

　　　⇒応募がない場合、適任者がいない場合は、文化振興会議で改めて議論いただきたい。

　　・委員が推薦してもよいのか。各委員が数名ずつ推薦してはどうか。

　　・公募期間中であり、委員による推薦は適当ではない。誰も応募がなければ、「大阪の　　文化はそんなものだ」ということ。大阪で文化に関わる人の気概の欠落だと思う。

　　・募集要項で年齢を70歳までとしているが、70歳を超えても頑張っている人はいる。

　　　⇒審議会の委員は原則70歳までとなっている。応募結果を踏まえ、統括責任者の選考を進めさせていただく。

　　・文化振興会議の委員が統括責任者になることは可能か。

　　　⇒公募して適任者がいない場合、文化振興会議委員又は委員が推薦する者から選定することも考えられるが、適任者がいないことが判明した段階で検討いただきたい。

・統括責任者の選定方法は了解したが、統括責任者がどう専門委員と議論し、意見を　　取りまとめるのかイメージがしづらい。

　　・専門委員をどう選定するのか。

　　　⇒規約では、部会長（統括責任者）の意見を聴き、会長が指名する、となっており、統括責任者自らが選定を進める。

　　・専門委員は文化振興会議委員以外から選ぶのか。

　　　⇒基本的には文化振興会議委員以外と考えられる。

・公募に際して、統括責任者が専門委員を組織化すると積極的には書かないが、府市の芸術文化の未来のため、統括責任者には個別の分野の専門性を求めず、多様な表現の形態や分類に着目して専門委員との関係構築を図る役割を期待したい。

・面接では、マネジメントなどの総合力を確認すべき。

○会長から統括責任者選考部会を設置し、部会委員は会長指名とすることについて諮ったところ、各委員の了承が得られ、決定した。

○会長から、選考部会委員について、アーツカウンシルの議論を進めてきた中川委員、　　山口（洋）委員、太下委員、池末委員、アートの専門的な観点から山下委員、民間の文化活動に詳しい橋本専門委員を指名する意向が示された。

（４）その他

○事務局から、資料５をもとに、平成25年度の大阪府・市の文化事業の概要を説明。　　　また、アーツカウンシルによる評価が始まるまで、評価の試行期間として、文化振興　　会議委員に事業現場の視察を依頼し、了解された。

　○委員から次のようなコメントがあった。（⇒は事務局）

　・平成24年度の予算総額はどのくらいか。

　　⇒平成25年度は府が約2.4億円、市が約4億円で、合計約6.4億円。平成24年度

　　　も同程度。

　・昨年度市の文化事業を評価したが、机上評価のみ。プロセスやインパクトを評価する定量的な目標はあるのか。評価手法の検討はアーツカウンシルの役割だが、目標値を定められるところは定めるべき。事業仕分けのように、事業そのものが単純に切られないように。何をどこまですればいいのかなどコンサルティング評価も必要。

　　・府では現地評価を行っているが十分とはいえない。市では昨年度書面評価のみであった。事業の担い手は、アーツカウンシルが設置されてどうなるのか不安に思っているところもある。丁寧に取り扱い、納得を引き出せるようにすべき。10月～12月には次年度予算への反映が必要であり、統括責任者が決まってからシビアな検討が必要。

　　・昨年度、市の事業のプロポーザル審査を行ったが、質的や量的にどのように評価するのか苦労した。お金をどのように使うのか考えること、また、次の選考基準につなげるような仕組みも必要。アーツカウンシル部会長一人では大変であり、サポートする必要がある。

・主催事業か、助成事業か、委託事業かなどで、評価方法も異なる。ちなみに、アーツカウンシルの運営に係る1,900万円の予算も、つまりアーツカウンシルそのものも評価の対象となろう。よって、評価観点と基準と方法の確立に向けた議論が必要だ。

・評価の仕方を部会だけでなく、文化振興会議本体で検討することもあると思う。これまで、市の評価は書面だけであり、まず現場を見てもらうことから始める。府はこの3カ年で再検討を進めてきたので、予算の問題もあるが、事業の評価を進めながら、慎重かつ大胆に事業の検討を進めて行ければと思う。

　○事務局から、資料６をもとに、「輝け！子どもパフォーマー事業」についての募集予定と審査をアーツカウンシルが担うことを説明。

○事務局から、資料７をもとにアーツカウンシルの広報について説明したところ、委員から次のようなコメントがあった。（⇒は事務局）

・ＳＮＳ（ブログ、ツィッター、フェイスブック等）の活用も必至だろう。「地域創造」の取り組みを参考にしつつ、アーツカウンシルのロゴを作成する必要もあるだろう。民間資金の活用を考えると、支援者を通じた広報も重要な視点となる。

・広報はまじめにやるとお金がかかるが、限られた予算の中で進めないといけない。どれくらいの予算があるのか。

　　　⇒あらかじめ予算化はしていない。事務費の中から捻出することになる。

○その他、委員からアーツカウンシルに関し、次のようなコメントがあった。（⇒は事務局）

　　・アーツカウンシルはひとまず設置されるところであり、企画・調査は初年度の動きとしては難しい。まず評価機能がきちんと立ちあがらなければならない。府市の補助金や助成金の審査があり、直営や委託事業の付替えなどは次年度以降になるのではないか。府市のフレームで評価を進め、来年以降に調査・企画により提案ができればよい。

　　・調査・企画を当初から進めると設計されてこなかった。

・文化振興計画を軸にじわじわと施策を変えていく。

・文化振興会議の役割としてはどうなのか。いくらの予算を使うべきなのかの検討や、この予算で何をするかを提言するなど。今まではアーツカウンシルが無かった。　　　将来的にはアーツカウンシルが独立することも想定できる。予算決定のプロセスは持たないが、会議として提案してもいいのではないか。

⇒文化振興会議から提言があれば、行政として検討を進める。もちろん議会の承認が必要である。

・統括責任者は責任を取るとのことだが、やるべきことと予算のバランスでどのようになるか。

・市の文化振興計画には博物館が入っているが、府にはない。アーツカウンシルと博物館の関わりや、文化行政に文化財行政をどのように絡めるか。アーツカウンシルの存在に注目が集まるが、そのもとにある府市文化振興会議も重要。次年度の事業計画や予算編成に向けて精緻な議論が求められる。

・広報の話は、見た目も大切だが中身も重要。アーツカウンシルの滑り出しやロードマップなど、人が欲している情報を出して、サポートしていくことが必要。

・アウトプットは事務局案を確認することが多いが、委員側から発信することはできるのか。また、調査部門的な動きは今年度開始できるのか。

　　　⇒まずは、統括責任者公募を行い、当面評価部門から進めていくことになる。

（閉会）